

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園運営事業			会計	款	項目	大	小
				01	03	02	07	02
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	児童発達支援センター				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり	主管課長	長谷川 聖二				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	概ね2歳から18歳未満で、成長や発達に心配がある児童及びその保護者。（通園	意図	子どもの障害及び程度を保護者が受容し、必要な療育支援を受けることによって幼児・児童の運動・ことば・社会性など、全体発達を促す。
事業内容	月曜日から金曜日まで通園バスを利用して登園し、集団活動を行う。また、基本的な生活動作、情緒や運動機能を育て、幼児・児童の社会的自立と地域での生活に向けて支援する。			
事業開始から現在までの状況変化	昭和52年マザーズホームから知的障害児通園施設つばさ学園となる。平成24年4月から経過的処置として「児童発達支援センター（福祉型）」となる。平成27年4月からは、児童福祉法に則った「流山市児童発達支援センター」となり、現在は心身の発達に遅れや心配のある幼児・児童の療育支援や理学療法などを行っている。また、医療的ケアが必要な重複障害児の受け入れも行っている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	延べ利用人数	5,664	6,046	5,338	人	→→
②							
③							
④							
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）			
事務事業の総コスト(a=b+c)	131,839,370	140,130,812	139,401,742	平成28年度の通園児童数は29名であり、27年度より3名の減である。また、医療的ケアの園児の手術入院、体調不良による入院、感染性胃腸炎、インフルエンザなどに罹り休みが多かった。27年度の延べ利用者数と比較すると708名減となった。年間利用率が82.17%となった。			
事業費(b)(円)	31,220,370	31,052,812	30,139,742				
うち一般財源							
職員給与費(c)(円)	100,619,000	109,078,000	109,262,000				
人役・職員(人)	13.00	13.00	14.00				
人役・再任用(人)	1.00						
人役・臨職(人)	10.00	7.00	8.00				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H28)の改善計画	改築工事実施に伴い、休園をせず、安全の確保しながら療育支援を行う。つばさ学園使用料の口座振替の実施。	③取組の課題	色々な障害を有する児童に合わせたクラス体制や支援内容の充実。建造物が増えたことによる園庭の利用の仕方や安全面を確保する。
②今年度(H28)に実施した取組	工事区域をフェンスで区切り安全を確保した。29年度よりつばさ学園使用料の口座振り替の準備を行った。	④今後の改善計画	医療的ケア児（喀痰吸引・経管栄養など）に対する支援の充実や保護者へのフォロー。利用者の駐車場の整備。